

2015 ネパール大地震緊急被害調査報告

2015年4月25日の午後、ヒマラヤに抱かれたブッダ生誕の地ネパールがマグニチュード7.8の地震に襲われました。死者数は8000人を超え、カトマンズ盆地にある世界文化遺産の内、3つの遺産が壊滅的なダメージを受けました。また、震源地に近いカトマンズ北西の山間地の集落では大半の家屋が倒壊しました。今回の地震の震源は世界の地震学者がマークしていた地震の空白域より東にずれています。そのため、マグニチュード8.0を超える巨大地震が20年内に発生するのではと指摘されています。

愛媛大学では、10数年に渡って、自然災害大国であるネパールの総合防災活動に取り組んできました。その結果、100編を超える学術論文を執筆し、また18回にも及ぶ国際シンポジウムをカトマンズ市で開催するなど、ネパールの自然災害研究におけるトップクラスの研究機関としての立場を確立してきています。

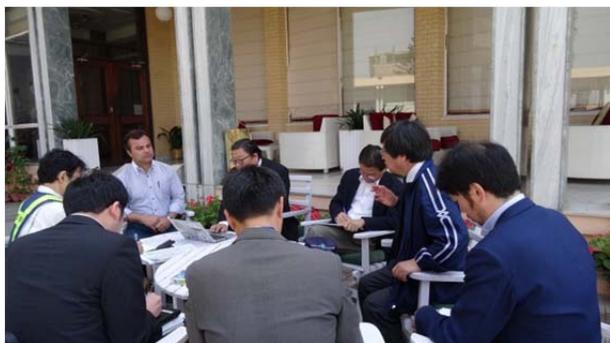
今回のネパール大地震の発生に当たって、愛媛大学防災情報研究センターでは、緊急被害調査団を派遣し、矢田部センター長、岡村教授、森准教授、ネトラ准教授（ネパール出身）、そしてアジア防災学特別コースの4名のネパール人留学生が被災地入りし被害調査を行ってきました。以下その調査様子、被害状況や現地における活動などを写真にて報告します。



■写真① 愛媛大学調査団と他大学合同調査員



■写真② 建物被害状況調査の様子



■写真③ 現地 JICA 事務所にてミーティング



■写真④ 現地の関係者(国会議員含む)向け報告会



■写真⑤ 報告会の開会挨拶する矢田部先生



■写真⑥ 報告会にて建物被害についてプレゼンする愛媛大学防災情報研究センター森先生



■写真⑦ 報告会主賓ネパール国元首相 Madhav Kumar Nepal 氏（防災情報研究センター客員教授）による



■写真⑧ 報告会主催者代表元文部大臣・現国会議員 Gangalal Tuladhar 氏（防災情報研究センター客員研究員）による閉会のことば



■写真⑨ 地元テレビを通じて今回の地震とその被害調査からわかったことを伝える防災情報研究センター森先生とネトラ先生



■写真⑩ 地元テレビによる「地震被害と復興」を中心にインタビューに応じるネトラ先生



「被災地でのボランティアによる活動様子」



■カトマンズ市中心に立つDharahara塔（地震前）



■地震時倒れてしまったDharahara塔



■カトマンズダルバル広場旧王宮（地震前）



■地震による被害を受けた王宮



■カトマンズダルバル広場の寺院・歴史建造物



■今回の地震によって倒壊した寺院等



■カトマンズダルバル広場内の寺院



■地震後の風景



■パタンダルバル広場の地震前の風景



■同ダルバル広場の地震後の様子



■カトマンズ市・ゴングブ町における建物の倒壊



■カトマンズ市内の高層マンションへの被害状況



■カトマンズ市シタパイラ町におけるたてmの被害



■カトマンズ市ゴングブ町における建物被害



■バクタプル・サンク町における壊滅的被害状況



■カトマンズより約40km東部カブレ郡における山村の壊滅的被害状況



■カトマンズ～バクタプル道路（JICA支援）被害



■カトマンズ→バクタプル方向の左車線が約1m沈下



■カトマンズ盆地の東部カブレ郡の山村への被害



■カトマンズ～コダリ国道（チャイナ道路）における斜面崩壊



■カトマンズ～コダリ国道（チャイナ道路）における
斜面崩壊



■カトマンズ～コダリ国道（チャイナ道路）における
斜面崩壊の生なまし状況